

# 事前の避難が第一

避難情報などをきっかけとした事前の避難が第一です。  
また、避難情報が無くても、予兆現象などを確認したら避難しましょう。



## 早い段階で安全な場所へ

雨・風が強くなる前、暗くなる前の早い段階で、安全な場所に避難することが大原則です。

### 早めの避難が必要なのはどんなとき？

- ◎事前に大型の台風や大雨が予想されるとき
- ◎夜中に雨が降り続けると予想されるとき
- ◎避難準備情報や避難勧告を聞いたとき
- ◎そのほかにもいつもと違うと感じたとき

### 例えばどんなところ？

- ◎歩いていける最寄りの避難所
- ◎親戚、友人宅など、市内に限らずより安全な場所

## その場そのときで命を守る場所へ

逃げ遅れてしまったら、その場そのときの状況で最も安全と思われる場所で身を守りましょう。

### 逃げ遅れたときってどんなとき？

- ◎浸水の中を避難しなければならない場合
- ◎土砂が迫ってきた場合

### 例えばどんなところ？

- ◎最寄りの高い建物や高い場所
- ◎自宅の高いところ、斜面から離れた部屋
- ◎指定避難所に限らず、駆け込めるところ

## 地域の避難ルール

地域で共有  
地域で周囲の異変に注意し、情報を共有する方法を決めておきましょう。

### ◎地域で避難ルールを決めておく

市内では「地域の土砂災害を考える懇談会」の開催を通じた地域の避難ルール作りの取り組みを実施しています。

#### 避難ルールの例

大雨が降り出したら、地区で作成した「土砂災害警戒避難地図」を見て、予兆現象に注意します。

みんなで逃げよう！

自主避難の連絡を受けたら、防災となり組ごとに協力して避難します。

予兆現象を発見したら、報告します。

#### 地域の土砂災害を考える懇談会（尾鷲市古江地区）

古江地区では、土砂災害に備えて、地域から犠牲者を出さないため、住民による取り組みを行っています。

過去に災害が発生した場所、大雨が降ると確認される現象や避難方法をとりまとめた地図を作成

古江地区での取り組みの様子 土砂災害緊急避難地図

## 三重県南部集中豪雨

尾鷲市は、全国でも有数の多雨地域で年間降水量は約4,000mmに及びます。

1971（昭和46）年9月10日の三重県南部集中豪雨は、わずか3日足らずでその4分の1にあたる1,095mmの降水量を記録するすさまじいものでした。

この集中豪雨により、賀田町と古江町で大規模な土石流が発生し、死者26名、負傷者30名、全壊42戸、半壊24戸、床上浸水259戸、床下浸水459戸という甚大な被害となりました。



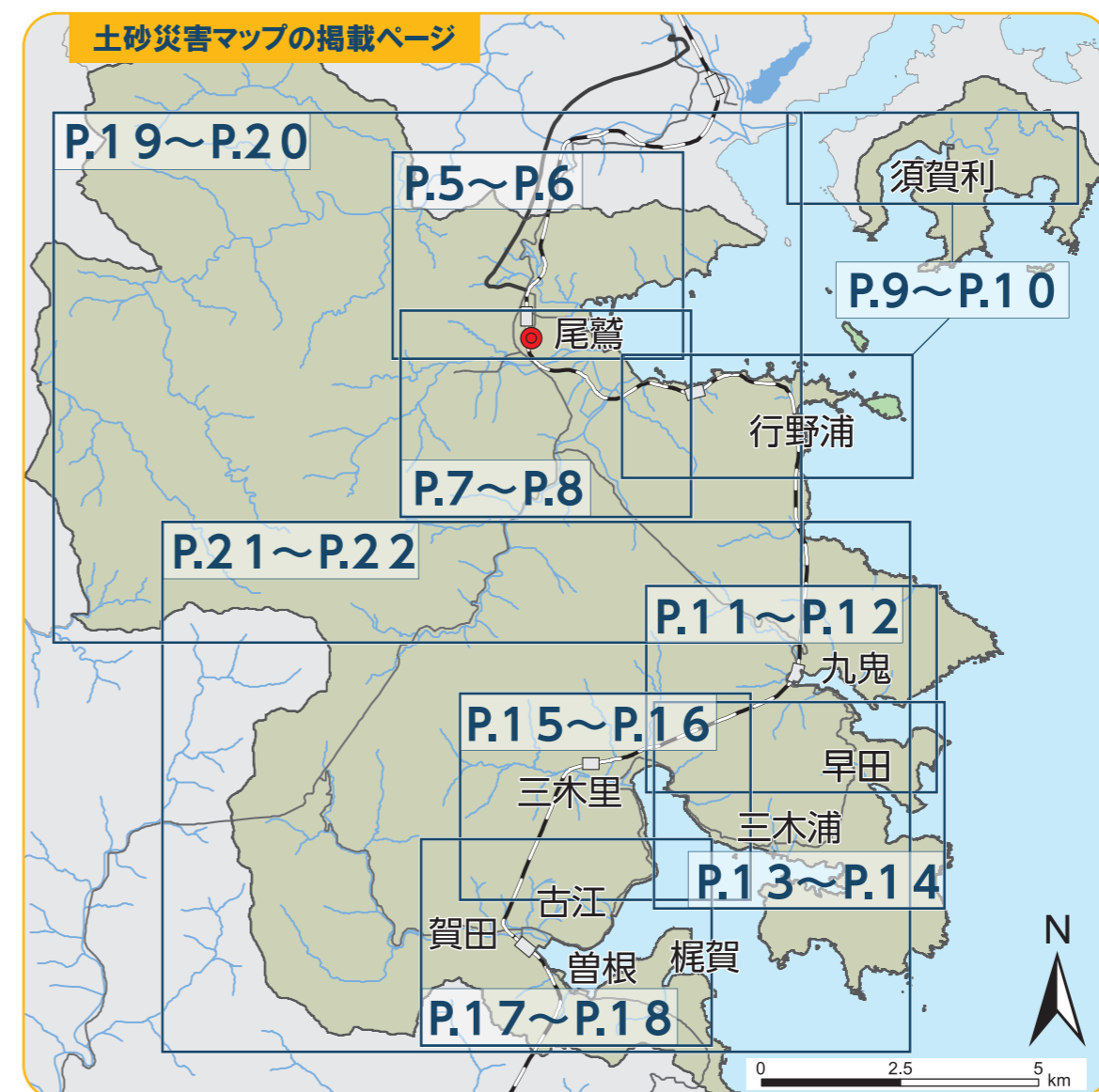
賀田町被害写真



古江町被害写真

## 原則は早い段階で安全な場所へ、逃げ遅れたらその場そのときで命を守る場所へ

土砂災害マップで自宅周辺、避難経路や避難先の危険な箇所を確認し、早い段階の避難先と逃げ遅れたときの避難先を検討しておきましょう。



### マップで確認し記入

マップで避難場所を確認し、裏表紙の記入欄にあなたの避難先を記入しましょう。